

## ～海に漂う“見えない”ごみ問題～

ここ最近「マイクロプラスチック」という言葉を良く耳にしませんか？  
この問題、かなり深刻なものとなっているようです。

### ～“見えない”問題が現実になりつつ～

一見ゴミも浮いていない海。

しかし、その中に微細な物質が大量に漂っています。

大きさ5ミリ以下の「マイクロプラスチック」と呼ばれるものです。

世界中から海に流れ出るプラスチックの量は、推計最大1300万トンに及びます。

それが砕け目に見えないほど小さくなり、海に漂っています。

“マイクロプラスチック”は、海水中の油に溶けやすい有害物質を吸着させる特徴を持っていて、100万倍に濃縮させるという研究結果も出ているようで、生態系への影響が懸念され始めています。

先般のG7でも、マイクロプラスチックの問題が“世界的課題”だと指摘され、日本の環境省も大規模調査を開始しており、ここ最近のニュースでも良く聞かれる様になりました。



### そもそも海からプラスチックを一掃することは可能なのでしょうか？

結論から言えば、全てのプラスチックごみを除去することは不可能です。

大部分は深海に沈んでしまったと言われ、小さく微細化したマイクロプラスチックやナノプラスチックの回収は、物理上極めて困難です。

これ以上状況を悪化させないために、プラスチックごみが海に流入しないように対策を立てる事が先決と言われています。

報告によれば、海底に沈んだプラスチックごみの世界平均量は70kg/km<sup>2</sup>といわれ、浜辺に打ち上がっているプラスチックごみが平均で2000kg/km<sup>2</sup>となっています。

仮に海上にプラスチックごみを回収する装置を設置するよりも、河口付近にごみを回収する装置を設置したり、ビーチクリーンをする方が費用対効果が高いと言えます。



# ～マイクロプラスチックの種類～

現在、51兆個のマイクロプラスチックが世界中の海を漂っていると言われ、その数はなんと、星の数の500倍！

マイクロプラスチックは、大きく2つのグループに分けられます。

○1次マイクロプラスチック ⇒ 製造された時点ですでに5ミリ以下のもの

身近なものとして、洗顔料や歯磨き粉、ボディシャンプーなどに含まれるマイクロビーズがあります。ほぼ毎日、生活に欠かせないもので消費（発生）されています。



○2次マイクロプラスチック ⇒ 風化して発生

(1ページ目参照)

海を漂流するプラスチックごみの多くは長い間、太陽の紫外線で高温にさらされ、光分解と熱酸化分解によって少しずつ劣化して脆くなり、やがて小さくバラバラになります。

さらに波の作用や岩や砂にすり減らされたりと、物理的な摩擦によって削られて小さくなっていきます。



## ～この問題が起こす脅威～

太平洋上には「太平洋ゴミベルト」と呼ばれる、大小さまざまなプラスチックゴミが渦になって集積している場所があり、その大きさは日本の国土の4倍以上とされていて、海流の影響で渦となるこの場所に集積されています。

小さなプラスチックゴミは、魚や鳥が餌と間違えて飲み込み、呼吸・排泄困難に陥って死に至るといった問題が起こっています。

また、生分解されない、極小のマイクロプラスチックはプランクトンや小魚が摂取しそれを餌とする魚介類の体内に蓄積され、最終的に人間の体内にも取り込まれます。

つまり、私たちは水や食品を通して、日々少しずつマイクロプラスチックを摂取していることになります。

しかし、人体にどのような影響があるのかの研究がまだ進んでおらず、人体への影響は明確に分かっていません。

今後明らかになっていくのかもしれませんが、大変気になる問題です。



「お持ちの土地や建物  
評価してみませんか??」

評価される金額は  
売買・賃貸価格に大きく反映します

<http://maruhiro2103.co.jp>

私たちは、土地や建物の仲介のみではなく、  
声かけ頂ければ、何でもお役に立てます！

～土地・建物のよろず屋～

 マルヒロ不動産(株)

名古屋市中村区横前町109番地

TEL: 052-413-4628

